

## 会議録

会議名	平成 27 年度 第 1 回 山陽小野田市国民健康保険運営協議会
開催日時	平成 27 年 8 月 27 日 (木) 15 時～16 時 20 分
開催場所	仮設山陽総合事務所 2 階会議室
出席委員	雨宮 宏枝 高松真智子 古谷 義彦 山田 文隆 加藤 政明 河東繁太郎 平田 武 末富みどり 小川 学 城戸 信之 (計 10 名)
欠席委員	酒井 和枝 長澤 英明 吉武 和夫 藤原 哲 (計 4 名)
事務担当課 及び事務局出席者	健康福祉部 部長 河合 久雄 部次長 岩本 良治 国保年金課 課長 亀田 政徳 主幹 安重 賢治 国保係長 大濱 史久 特定健診係長 岡崎さゆり
会議次第	1 開会 2 部長あいさつ 3 会議成立報告 3 正副会長選出 4 議題 ①平成 26 年度国民健康保険特別会計決算について ②平成 27 年度国民健康保険料率について ③国民健康保険の広域化について (報告) ③国民健康保険データヘルス計画の策定について (報告) 5 閉会

### 議 事 内 容

	●議事①平成 26 年度国民健康保険特別会計決算について
事務局	<資料①を用い説明>
委員	一人当たり保険料は県内で何位ぐらいか。
事務局	平成 26 年度の料率設定に際し調査した時点では 5 位であった。
	<議題①、全員挙手により承認>

	●議事②平成 27 年度国民健康保険料率について
事務局	<資料②を用い説明>
委員	基金残高はいくらか。
事務局	平成 27 年度の当初予算に計上している取り崩しを行ったとして 5 億 3,600 万円である。
委員	これまで収支が赤字になったことはないのか。
事務局	平成 20、21 年度に赤字を出して基金が枯渇したことがある。それ以降、国が示す基準の他に、基準外繰入金として財政基盤強化のために繰り入れをし、5 億余りを積み戻した。
委員	本市の料率は高いのか。
事務局	本市は被保険者の所得が低い傾向にあり、必要な支出を賄うため率を上げる必要がある。
委員	多く稼げば多く払うということか。
事務局	被保険者総体としての所得が高くなれば、同じ支出を賄うにも料率を抑えられ、同じ所得であれば保険料が安くなることになる。
委員	一般会計からの繰り入れ状況は、他市と比べてどうか。
事務局	基準に基づいた繰り入れについてはどの市も規模に応じた繰り入れをしている。基準外の繰り入れは他に 3、4 市が行っている。本市は平成 26 年度に 3,000 万円を繰り入れた。
委員	保険料を下げるにはどうすればよいのか。
事務局	保健事業に取り組む中で医療費を抑えていきたい。
委員	保険料が高いと一次産業従事者が株式会社化を考えたりして被保険者が減っていくかもしれない。

<p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>所得が上がって医療費が下がれば保険料は下げられる。母体が小さいと高医療費の発生リスクに耐えられないので、平成 30 年度からは国保を都道府県単位化して財政基盤を強化する予定である。</p> <p>県内他市の保険料の状況を見ると、被保険者数が多いからといって安いというわけではないようだ。どういう要因があって保険料が高くなるのか研究されたい。</p> <p>KDB システムが導入されて医療費の分析ができるようになった。これを活用して効果的な保健事業に取り組んでいきたい。</p> <p style="text-align: center;">＜議案②、全員挙手により承認＞</p>
<p>事務局</p>	<p>●議事③国民健康保険の広域化について（報告）</p> <p>＜資料③を用い説明＞</p>
<p>事務局</p>	<p>●議事④国民健康保険データヘルス計画の策定について（報告）</p> <p>＜資料④を用い説明＞</p>